

『心を尽くして主を求めよ』 エレミヤ書 29章10～14節 2015.6.7(日)主日礼拝より

『もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。』エレミヤ29:13

◆聖書の神は『シャロームの神』。シャロームとは「繁栄、平安、平和…」など多彩に訳され、満ち溢れた実感のある幸福感を意味する。その本質は『健全・完全』。復活した主が、「あなたがたに平安があるように…聖霊を受けよ！(ヨハネ 20:21～22)」と勧めた平安は、主を信じる者に与えられ、「神との平和(ロマ 5:1)」となる。その『キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし…敵意を廃棄された(エペソ 2:14～15)。』お方である。キリストを信じた人は、その心にシャロームを持ち、あらゆる敵意、争い、憎しみから解放される！それは、あらゆる試練や苦悩と向き合う力ともなる。つまりこの平安は、この世のあらゆる不満や不遇な状況でも消えることがない！パウロは言う。『…私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています…。(ピリピ 4:11～13)』と。

◆70年間のバビロン捕囚となった民は、徹底して神の御旨に服従する覚悟が求められた！つまり、そのバビロンの地で、謙虚に、腰を据えて生活し、その敵地の繁栄(シャローム)を祈ること！そして、その不遇な生活の中で本気で神を求める(礼拝する！)ように告げられた！イエス様も、『自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい(マタイ 5:44)』と言われた。逆境の中でも神を仰ぎ、敵とさえ思える者の祝福と幸せを祈れるのは、この世にクリスチャンしかいない！それは、常に、どこでも、神の圧倒的な恵みの支配があるから。神のご計画は『…わざわざいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ(エレミヤ 29:11)』と知っているから！

◆私たちが神を仰ぐ時、逆に神が私たちを見ておられ、私たちが神を捜し求めるとき、神が私たちを探しておられたことを知る(ルカ 15:11～32)。聖書は、私たちが神の名を呼ぶ以前に、神がまず私たちを呼ばれたと語る(イザヤ43:1)。エミール・ブルナーは、『祈りとは、独り言や会話以上のもの…それは「応答」である』と言った。『…あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられる(マタイ 6:8)』私たちの父なる神が、順境のときも、あらゆる厄介な問題の中にも共におられ、「平安を受けよ！慰めを受けよ！」とまず語りかけておられる。どんな時もこの御旨を信じ、その御声に応答して、いつも主の平安の中に歩ませていただこう！